

前略

11月4日 宇治公民館で行われました意見交換会でお伝えできなかった内容を送りますので、ご検討ください。

改修計画のデザインについて

できるだけ人工的なデザインを控え、自然の作り出す造形を助長する という姿勢をもとに、取り組まれると思いますが、その具体化が重要です。

塔の島から上流の区間は、溪谷から平地に移るに伴い、川の表情も多様に変化していました。その変化のある自然景観と建造物のバランスが宇治川の財産だと思います。

以下に留意点の例をあげます。

- ・石を使う場合でも、単に自然の石を使うだけでなく、下記の配慮が必要。

溪谷部では自然の岩肌や大きな岩を特徴とし

塔の島付近では中流域にある玉石の堆積があり

その中間部分では上記の混合を演出する

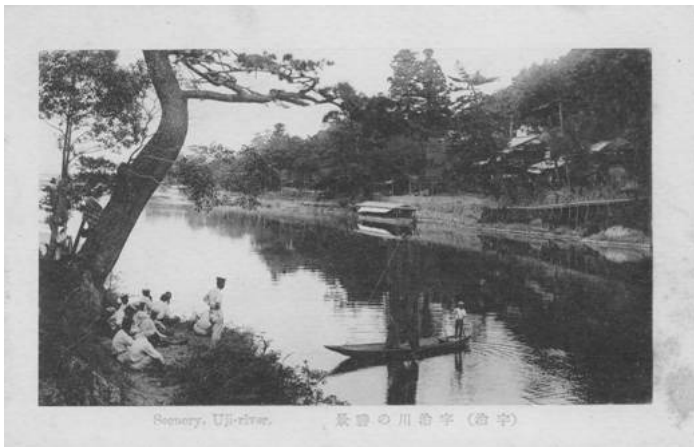
- ・川底のレベルもフラットにせず、深い浅いの変化を残す。
- ・堤防の樹木とのバランスも大切。
- ・昔の写真のよいところを再現。他のよい例から学ぶところを取り入れる。
- ・沿道の照明にも配慮を。夜の暗さを演出することも必要ではないか。

いずれにしても、ヴィジュアルなイメージを市民と共有できるように配慮された進め方をお願いしたいと思います。

例えば、ワークショップ形式で現状のよい点、悪い点を持ち寄るなども一つの方法ではないでしょうか。

昔の観光パンフレットなどから参考になるイメージを添付します。

(※写真は全て宇治市歴史資料館所蔵：掲載許可を得ております)



宇治地域での 1500 t / s という放流量は

- ①宇治川塔の島地区の景観破壊を招き、
- ②宇治川堤防の安全性が不確実であるため、

現状の宇治川で処理可能な流量に見直しをお願いします。

この放流量の設定は、琵琶湖での水位上昇に伴う被害が最大の原因とされていると思いますが、この被害が上記①②よりも大きな問題なのかの比較が説明されていません。

琵琶湖での問題点を無視するつもりはまったくありませんが
宇治川の抱える問題も大きいと思いますので、ここのところを
しっかりと比較検討いただきたく考えます。